

[例示]
(別紙様式2)

20 年 月 日

論 文 目 録

氏 名 山 口 太 郎

論 文

1. 題 目 ○○○に関する研究

2. 印刷公表の方法及び時期

第何章は次の論文からなる。

著者名（申請者名には下線）：論文のタイトル、学術雑誌名（略さない）、
巻（号）、最初の頁—最後の頁、年（或いは、印刷中）

[例]：第2章と3章は次の論文からなる。

YAMAGUCHI Tarou, KANBE Ichiro, YAMADA Hanako : Complete
development of mosquito phases of *Mariah Carey* in vitro.
The Journal of Science and Technology, 38, 6989-6997, 2002

3. 冊数 1 冊

（提出する学位論文の冊数（例：6冊）を記入するのではなく、提出する学位論文が
何冊で構成されているかを記入すること。通常は1冊。）

参考論文(イノベーション・ストラテジー研究成果書は、参考論文として記載しますが、神大図書館に送付せず、既にお知らせした取り扱いのとおり、厳重に管理します。)

- ※1. 提出する学位論文と内容的に補完的な関係にあつて、学位審査の対象として不可
分なものを参考論文として提出してもよい。
- ※2. 【予備検討（内見）】参考論文を提出する場合は、指導教員（内見受理教授）の指
示に従うこと。
- ※3. 【本審査】参考論文を提出する場合は、1 題目、2 冊数を同上のスタイルで
記入したうえで、学位論文と同数提出すること。（神大図書館等に送付されるので、
ホッチキスなどで綴じること。）
- ※4. 【本審査】神大図書館等には送付する必要がないが、審査委員にのみ送付したい
論文がある場合は、論文目録には「参考論文なし」と記入したうえで、審査委員

と同数提出すること。(複数の論文がある場合は、各審査委員に配布しやすいように、審査員毎に論文をクリップ等でまとめること)

記入上の注意

- ① 1枚に収まらない場合は別紙を加えてもよい。複数枚になる場合は左上をホッチキス止めすること。
- ② A4の用紙を使用すること。
- ③ 発表論文の著者名が多い場合は申請者名を含む数名を示し、他は *etal.* とする。
- ④ 右上部の日付は、予備検討の際は学位論文草稿予備検討願と、本審査の際は学位論文審査願及び履歴書と、同じ日付にそれぞれ統一すること。